

## 徳島県立二十一世紀館協議会 会議録

1 日 時 令和6年12月12日(木) 10:00 ~ 11:05

2 場 所 二十一世紀館会議室

3 出席者

【委 員】 10名中5名出席

佐野会長、千葉副会長、蔭山委員、清重委員、林委員

※欠席委員 武市委員、武田委員、田所委員、乃一委員、横島委員

【二十一世紀館】

館長、副館長、館員4名

4 会議次第

1 開 会

2 二十一世紀館長挨拶

3 議 事

(1) 令和5年度事業実績について

(2) 令和6年度事業概要について

(3) その他

5 閉 会

【議事（１）令和５年度事業実績について】

【議事（２）令和６年度事業概要について】

事務局

（資料に基づき説明）

委員

来館者数が減った理由の説明があったが、今後、新型コロナウイルス感染症が明けて多様化してというときに、どのように来館者を増やしていくのか。

事務局

今年度は、トクシマ恐竜展２０２４やエミール・ガレ展があり、やはりイベントのインパクト、どれだけ興味を持っていただけるかという企画段階から全てが始まっていると感じている。年間通じて、二十一世紀館でも様々な今までの取組を継続しているが、それだけではどうしても県民皆さんの嗜好の多様化を捕まえきれない部分はある。

まずは、魅力的なイベントを企画段階で一生懸命考えることが大事だと思っている。その上で、今回の恐竜展は徳島新聞との共催であったので、新聞広告を積極的にしていただき、イベントの知名度も上がった。さらに、SNSを用いて、Web広告を展開した結果、県外から３割もの来館者があった。もちろん県内からの来館者も大事ではあるが、加えて県外から足を運んでいただくことも今後のポイントとなるので、来年度以降の企画展の際にも、Web広告等でお知らせをして、県外などの新たな来館者を増やしてまいりたい。

委員

文化の森のイベントだけでなく、その他のイベントとも連携していくのか。

事務局

現在、文化の森は、県の観光スポーツ文化部に属しており、観光分野が同じ部にある。来年度は大阪・関西万博もあり、今年度のイベントで万博PRを文化の森で開催したようにお互い、万博としても知名度を上げ、文化の森としても万博を契機に来館者につなげ、部内の連携をさらに深めていきたい。

委員

SNSでの発信は、具体的にどういったものを使ったのか。

事務局

Facebook、Instagramを使い、ある程度エリアや年代を限定し、Web広告を展開した。エリアは、近隣県から来館いただけるのではと予測し、香川県や淡路島や神戸、四国内も含め限定した。Web広告は、広告を見た方の分析ができる。今回の恐竜展は、３割が県外からの来館者で、Web広告の分析の結果、香川県の方が非常に多く見ていただいたことが分かったので、今後の広報にも生かしていきたい。

また、文化の森は、来館される年齢層がファミリー層や高齢者の方が中心のイメージがあるので、今後、若い層も含め、今の世代の方たちに良いものを開催するとともに、発信していくことも大事だと思っている。

さらに、恐竜展の来館者は、初めて来られた方が半分ぐらいであった。リピ

ーターも大事であるが、やはり来ていただいて知っていただくのが一番である。  
今後も広報面においては、これまでプラスアルファで工夫をし、たくさんの方に足を運んでいただけるようにしていきたい。

委員 施設貸与事業で、スタジオの貸与がゼロの日が結構ある。どのような方が、どのように使っているのか。

事務局 スタジオは防音室になっているが、現状、鏡以外は何もない部屋である。防音室なので楽器の練習等で使っていたり、イベントホールの近くにあるので、イベントホール利用者が、追加で控室として使っていたりしている。ほかの部屋と違い、正面からの廊下に面していないので、利用が少ない原因でもある。

委員 「文化の森から」の広報誌は、情報がたくさんあるので大変とは思いますが、もう少しオシャレにならないのか。挿絵がネットフリー素材のようなので、見てランクが上がるのではないけれども、憧れの対象となるような紙面にならないのか。

事務局 たしかに、目を引かないと見てもらえない。予算面で厳しかったり、一般的な業者に入札という形では、デザイン性の高いものにするのは難しいところもある。例えば、目立つような配色にしたり、美術館にアドバイスやデザイン面でのポイントを教えていただいたりするなどして、今後、工夫をしていきたい。  
そのあたり、私どもも気になっているところで、広報誌を含め、ホームページも見やすくするような工夫を現在している。情報をたくさん出したい反面、情報があふれると逆に見づらいこともあるので、整理しながら、できるだけ伝わるようにしていきたい。

委員 先ほど、県外の来館者が増えたということであったが、地元の方たちをもっと中心に据えて事業を動かしていかないといけないと思っている。観光や県外の方たちに頼ってはいないと思うが、できるだけ頼らずに、地元の方たちと一緒に作っていく視点を持つことが必要である。インパクトのある事業は大事であるが、観光だけではないと思っている。

事務局 どうしても観光というと、1回行ってみただけというふうになるのでそうならないよう、文化施設なので、県外からでも何度も足を運んでいただき、リピーターとして支えていただけるような方々に是非来ていただきたい。それは、県内・県外同じで、初めて来ていただいて文化の森を知って、何度も足を運んでいただける流れになるのが理想で、単なる観光ではなく、腰を据えてお付き合いしていただきたい。

委員 恐竜展やエミール・ガレ展が、新聞に大きく掲載されている。新聞やテレビの情報は、見ようとしてなくても自動的に入ってくる。今年度は、活発に広報していると感じた。

事務局 徳島新聞社との共催であったので、新聞の普及率も高く、あれだけ大きく紙面を割いていただくと非常にインパクトがあった。ただ、新聞を取っていない方や県外の方等へ、SNS等いろいろな手段を組み合わせることで情報を発信していきたい。

委員 「文化の森から」の広報誌は、ホームページにPDFが貼ってあるが、ダウンロード数はどれくらいか。広報誌のデザインの話もあったが、例えば、高校生等に一部分をデザインしてみませんかと参加を募り、協力いただくことに取り組んでみるのもよいのではと思う。

全般的にアクセス数が減っているのでは、先ほどの話にもあったが、ホームページを工夫したほうがよい。また、所蔵しているものをデジタルアーカイブとして見えるようにしているが、もう少し見せ方の工夫が要るのではないかと。どのくらいアクセス数があるのか。

事務局 デジタルアーカイブのアクセス数は、年々増えてきている。見せ方の工夫はまだこれからで、単にデータを載せているだけでは見てもらえないので、どのような資料、美術品、文化財等があるのか興味を持ってもらわないとアクセス数も増えない。もう少し、見せ方を工夫していきたい。

委員 見ていると、資料が羅列されるだけの単体で終わってしまっている。古いものであるから歴史的なストーリーが背景にあって、それに沿って所蔵物があるように見せるといいのではないかと。

事務局 デジタルアーカイブの見せ方として、今あるデジタルアーカイブを発展させ、パソコンの中にバーチャルな文化の森を作り、そこをあたかも訪れたような形でデジタルアーカイブを見ることができるようにもしている。グーグルアースをイメージしていただくと分かりやすいと思うが、ドローンを飛ばして、空から文化の森を360度カメラで写し、文書館や図書館、四館棟にリンクを貼り、そこをクリックすると、例えば美術館の仮想展示室に入って展示物をインターネット上で見るといったことを今年度、構築しており、来年度、公開予定である。

委員 今の話は、基本的に今あるものをバーチャルの中で体験できるということで、それはデジタル化して単に見せるだけの電子化の話である。先ほど話したように、見せているものに対しての背景、ストーリーといったものも合わせて提供できるようにしないと、恐らくアクセス数は増えないのではないかと。労力が要

るが、そういうふうにはやっていかないと訪れる人も増えない。最初は物珍しいので来るかもしれないが、その後が続かない。それを見て、文化の森へ行こうとなったら一番良いので、電子化している状況をうまく活用してほしい。

もう一点、いろいろな所蔵物等があり、サイトを見ればその写真があるが、その写真を拡大・縮小することしかできない。結局、手間や予算との絡みもあるが、可能であれば、物体を自由に動かして、どの角度からでも見られる3D化を進めていただきたい。

また、これも手間や予算等があり難しいかもしれないが、文化の森で主催しているイベント等を録画してアーカイブにし、公開するかどうかは別として、そういうものを収蔵していく工夫があってもいいのではないかとも思う。

(議事(1)、(2)については終了。)

### **【議事(3) その他】**

特になし。

それでは、御意見も出尽くしたようなので、これをもって本日の議事については終わらせていただきたい。事務局には、議事の内容を今後の二十一世紀館の活動・運営に生かしていただきたい。